

鉄道ピクトリアル

1967年9月号 Vol.17 No.9

<上越線開通35年特集>

上越線が南北手を結んでから36年、待望の全線複線化が完成されるのを記念して、新旧清水トンネルを中心として話題を特集

表紙 「複線の眼開く」	佐竹保雄 撮影
カラー頁 「初秋の湖畔」(第12回写真コンクール入賞)	片山正保 撮影
グラフ	
<上越線特集>	
新清水ずい道	佐竹 保雄 11
電化当時	本島 三良・佐々木桔梗 12
電気機関車の今昔	伊藤 昭・柳江 耕二・岡 準二・三好 充恭 14
電車列車時代	伊藤 昭・安藤 征一・沢柳 健一 16
進む複線化	国有鉄道提供 18
新清水ずい道開く	国有鉄道提供 52

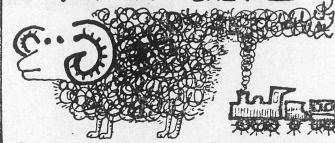
第12回鉄道写真コンクール入賞作品集

神戸暮色	小林 茂 43
転車作業・掃除	南 孝雄・堀越 康夫 44
花輪線の秋・春の午後	菊地 秀一・石田 静史 46
朝の力闘・黄昏の軽便鉄道・ずい道区間	玉木 正之・房宗 友治・庄野 鉄司 48
夕陽に映えて(解説74頁)	奥津 英三 50
WIENの市街電車	青木 栄一 54
南海電気鉄道・18m車を追って	藤井 信夫 56
消えゆくSL	58
トピックフォト	
北海道・関東信越・中部北陸・関西中国九州・東北だより	83

本文

<上越線特集>	
清水ずい道建設誌(抄)	9
上越線電化を偲ぶ(座談会記録)	編集部 19
上越線開通35年と複線化工事	峰本 守 25
上越線に入った最初の国電	沢柳 健一 32
<清水ずい道開通前史>上越軽便線の記録	中川 浩一 35
今月の話題・東京付近の通勤電車の色分けついに完成	3
42年度日本鉄道建設公団事業計画	土居 則夫 4
国鉄根岸線延長工事始まる	長田 寛 7
書評②「駅弁旅行」	和久田康雄 31
資料・日本の私鉄 [15]	和久田康雄 39
鉄道事始のはなし [13] 国鉄バスのはじまり	浦川 眞介 59
ウィーンの市街電車を見て	青木 栄一 60
私鉄車両めぐり [73] 南海電気鉄道(8)	吉川 寛・藤井 信夫 63
東北ローカル線シリーズ②鳥海山口の矢島線	久保田 博 72
鉄道の話題	74
質問に答える	75
車両の動き	77
読者短信	79
7月のメモ帳	82
歌でつづる鉄道百年 [7] 大正・昭和編(3)	高取 武 91
TTKだより・後部車から	95

今月の話題



カット 土屋 昭雄画

東京付近の通勤電車の色

分けついに完成

国鉄では7月10日の常務会で、本予算の車両計画として新幹線および通勤電車など、総額約80億円の車両を追加新製することを決めた。

これは新幹線旅客の増加と、大都市通勤輸送の改善をはかるため、来年3月まで電車・ディーゼル動車など295両を増強しようとするもので、このうち特に常磐線用に103系新性能車110両がはじめて投入されるが、この103系にはエメラルドグリーンの新しい塗色が施され、中央線のオレンジ、山手のウグイス色、総武線のイエロー、京浜東北線のライトブルーとともに、また新しい塗色がふえたわけで、これで懸案の東京付近の通勤電車の新性能化と色分けが完成されることになった。

今回追加発注される車両は、新幹線電車36両約24億円、近郊および通勤型電車225両約48億円、ディーゼル動車34両約8億円、合計80億円で、これにより先に発注した178億円を合わせると、本年度における本予算の車両新造計画は、総額258億円に達することになる。

新車が落成すると、まず新幹線は現在の53編成が明年3月には60編成となり、103系110両が全部常磐線へ投入され同線は45%が新性能化を達成、101系はわずか12両だが中央緩行・総武線へ投入され同線はオール10両編成、113系は95両増備され、横須賀線42両、大阪快速線用53両が投入され両線とも95%が新性能化され、このほか423系交直電車8両が北九州地区へ投入されるなど、各線の輸送情勢は大巾に改善される。

[表紙] 「複線の眼開く」

佐竹 保雄

721M 越後湯沢行 新清水ずい道入口にて '67.7.2

センザブロニカ S2 ニッコールF3.5 135mm 級り4 タイム1/250 エクタクローム

[カラー頁] 「初秋の湖畔」

片山 正保

(第12回鉄道写真コンクール入賞)
3Dおとり 仁山(信)一大沼間 '66.9.22
コニカオートレックスP ヘキサノンF1.4
57mm 級り9 タイム1/250 スカイライト
コダカラ-X

TETSUDÔTOSHO KANKOKAI
New Kokusai Bldg. Marunouchi
3-4, Chiyodaku, Tōkyō/Japan